

三四月日

常警日新聞

定額 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元
 廣告費 別表
 印刷所 常警印刷株式會社
 發行所 常警印刷株式會社
 電話 六〇〇〇番

『おまけ』の心理

一 讀者

大きな雑誌社、新聞社でその雑誌なり新聞なりにおまけをつけるので安いことが、否それだけは貰ひ得たと考へて讀者はこれを歓迎する。その心理状態にはいは不勞所得といふか僥倖心といふかほろい儲けといふか他力根性といふか物貰ひ根性といふかとに角おまけを欲しがらる根性である。正當に働いて正當の實力で勝ち得たものを我が物とする

平町會雜感

耕 影

- ◇豫 算 案
歳出の豫算膨れて牙え返る
- ◇中 立
灰色の空を泳いで奴唄
- ◇第四小學校派
南軍の旗幟鮮やか春の風
- ◇小學校「ストブ」新設
學ひ舎に暖房据いて兒や踊る
- ◇酌 議 員
微醉ふて議論風發のとかなり
- ◇五色町地代値上
イロ町に不況の風や春寒し
- ◇某議失言問題
浮かれ猫脚あたりに聲外れぬ
- ◇火葬料値上
亡魂の浮ふ瀬あらん蓮華臺

ることに正しき快感を味はうよりは甘いことをして儲つたといふやうなずるいなしよの、そして餘計な利得に快感を感じる態度になつてゐるこれは決して道徳的責任感の強い正大な明るい性格を表現するものではない云はゞ世道人心の頹廢を意味すること大なるものである、かくの如くして現代人はおまけをおまけと漁つてゆく實力による正當の結果を期待するのでなく何か僥倖を求め他力根性で餘計のものをもらふことを楽しみとする今日自力脱生の方針が大聲叱呼され

ノ ー ト

感冒豫防
に厚着す
るより腹
巻、毎朝必ず深呼吸、湯上りには足へ冷水を注ぐ
空腹を我慢せぬ事

は決して將來の國運を開拓し得るものではない、これはおまけを楽しみ受ける方面から見たのであるが同時に おまけの心理を利用する實業家も課に困つた代物であるといふのは實はおまけなどは本當にはないもので

明日の献立

- 【朝】すまし汁・ねぎ油
あけ
- 【晝】焼き肴・いか鱈やき
【晚】煮しめ・つと豆腐
推茸 里幸

ある文字通りおまけをやつて居たのなら商賣は成り立つ筈はない勿論安く買手のためになるやうに圖ることとは必要だがこれは全然採算がとれないといふ筈はないわけである、他人を利用することによつてまた自分を利するのが商道の當然であ

る、本當におまけだけするのならば始めから社會事業慈善事業と名乗つてやればよい、おまけといふのは本當のおまけではない名前だけのおまけである、うそのおまけである、インチキのおまけである、道徳を喰ひ物にしたおまけである、いはゆるおまけとはその時に思ひついてこれで商ひを終ふから何かの因縁をもつての實意のあるおまけでなければならぬ。

斯界の權威!!!
大塚の靴

自生編上靴 六圓
學生靴 五圓
女學生半靴 五圓

紳士靴弊店自慢の流行新形

平田町
大塚製靴部
電話七七番

トモ面白
具玩ナ議思不

大人も子供も白熱的大歡迎
ヨロヨロが來ました

世界的流行玩具一ケ金五錢
金十錢

平驛前
いづみや玩具店

三河産業博覽會 金牌受賞
昭和産業博覽會

お惣菜用
さつま揚
吉原揚

平町一丁目
電話一四一番

吉田眼科病院
平町一丁目電話六八番

内科・小兒科・花柳病科
藤沼醫院

入院需應

平町紺屋町
電話五〇七番

十日
體温の検査日です
お宅の體温計は?
正確な體温計を御利用下さい
西村屋藥局
電 三番

全外科
醫學博士 渡部 義夫

小兒科
女 醫 渡部 さい子

平町田町大通り(電話二七七番)
入院應需 渡部 外科

寛田院葬送の際は遠路態々御會葬被下且御鄭重なる御香奠を辱ふし難有奉深謝候實は早速拜趨御厚禮可申上筈の處混雜中に付乍略儀以紙上不取敢御禮申述度如斯に御座候 敬具

昭和八年三月四日

男 吉田 鎮政
男 清水 廣政
親戚 清水 爲政
總代

噫!!!十勇士

師團長を迎へ

輝くその英名

多門師團長來郡を機とし七日午前十一時より松ヶ岡公園忠魂碑前に於て舉行される慰靈祭は既記の如くであるが英名十勇士の氏名は左記の如くである

- 飯野村 伍 長 山崎 一好
- 江名町 同 中田 七造
- 湯本町 同 西牧 重政
- 山田村 上等兵 安島 喜一
- 上遠野村 同 大久保幸太郎
- 小名濱町 同 佐川 泰男
- 玉川村 同 箱崎 光
- 三坂村 同 馬目 本二
- 鹿島村 二等水兵 鷗沼 美光
- 大野村 關東廳巡查部長 木田 龜之助

小作米品評

地主と協力して

産米の改良を圖る

石城郡神谷村の土地所有者及び小作人は協力して産米の改良を圖る爲め小作米受驗組合を組織して毎年納入米の品評會を開き優良者は賞品を授與し表彰を行ふ事となり第一回の品評會を二月上旬より農事試験分場

に開き小作者二百十八名より千三百九十五俵の出品があつたので來る六日午後一時より同試験分場にて優良者の賞品授與式を行ふと

産業青年協議

石城郡江名産業組合青年聯盟で

孝女の家出

誘拐されたか

石城郡湯本町宇傾城居住坑夫福島春之(五七)の次女テル(一八)は最近父親が病氣勝ちで仕事が出来ずに居るのを氣にして働きに出ると稱し昨日夜行衛不問となつたので悪桂庵に誘拐されはしないかと母親のマキから本

千圓の

保険證書に眼を付て迫る

葬儀費用の立替えが理由

平町南町居住山木テルは病氣の夫義元を抱へ僅な賃仕事に依り細い煙を立て居たが義元は去る一日遂に病死し葬儀の費用に窮したのでテルは夫の兄石城郡飯野村南白土山木弘に費用を立替えて貰つた處

沿道には大國旗

我等の凱旋將軍に

町民の至誠

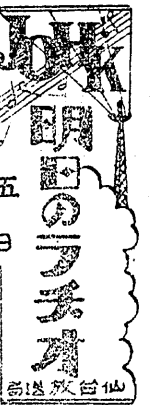
既報來る七日來平する多門師團長歡迎の爲め全市内戸毎に國旗を掲揚し特に驛がら公園に至る沿道の田町、二丁目、一丁目、紺尾町、研町等では大國旗を掲揚すると

肥料注文

商店選定

好問農實協議

石城郡好問村農業實行組合では明五日後一時より組



今夜は北西の風晴曇半し明日は北の風大休時れ海上荒れ模様

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童話「白菊童話園」ピアノ 伴奏 星出敏一
- 後七、三〇 講演 後八、〇〇 獨唱「獨唱マティーニ」ピアノ伴奏 ケートアイハンセン

明日の部

- 前九、一〇 榮養料理「大豆入り油揚げ」榮養研究所 前九、二〇 子供の時間
- 後八、三〇 名作物語「雁」徳川夢聲 福田宗吉
- 後九、三〇 満州より時報 全國ニュース 象通報 番組豫告

ラヂオスケッチ「楽しい幼稚園」仙臺幼稚園 前一〇、〇〇 講演 文學博士境野野洋 前一〇、四〇 講演「驅逐艦早敷救難作業について」朝日艦々長海軍大佐小橋義亮 後〇、五〇 新人の午後(新内歸咲名残命毛)鈴井徳吉(清元賑民壽萬歳)瀧田禮子(新内戀娘昔八丈)黒羽幸一郎(漫談物真似朝から夜中まで)市川榮藏(常磐津千種野戀の兩道)柳川あか(長唄外記

猿)唄小山喜三郎(義太夫戀飛脚大和往來)杉浦都(新内明鳥夢泡雪)星野福壽 後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東京ラヂオオトクストラ 指揮平野主水 後六、二五 講演 後七、三〇 俚諺藤木小唄 後七、五〇 映畫物語 中村聲波 伴奏指揮島田晴 後八、二五 人形浄るり「増ノ浦兜軍記」文樂座より中繼

平職業紹介所報告

- 回人を求める方
- △芋磨賣子 四十才 尋卒 賣上の二割(浪江町某)
- △雜夫 三十前後 尋卒 給料面談(江名町某)
- △女中 二十以下 尋卒 月五六圓(好問村某)
- △染物外交 三十六才 尋卒 給料面談(平町某)

回職を求める方

- △女中 十九才 裁縫學校卒 給料面談(飯野村某)
- △雜夫 三十九才 尋卒 給料面談(平町某)
- △菓子職 四十九才 高卒 給料面談(田村郡某)
- △女事務員 二十三才 高女卒 給料面談(平町某)



平町四丁目停車場通電三四六

外科 X光線科

入院隨意

安齊外科醫院

電話四七五番

外科

専門線科

上田外科病院

平町南町 電話一二九番

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫
佐々木見山

第二百八十二席

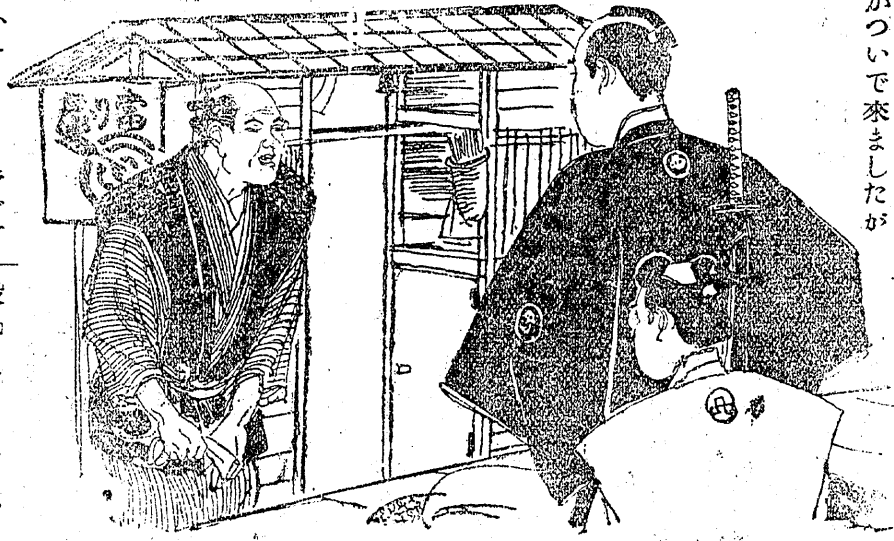
そばの製法を學ぶ
夜そば賣の長兵衛を待たして置いて松崎采女は有馬侯の前に出て

松「夜そば賣長兵衛事瘤長が見えましてございます」
殿「長兵衛参つたか、荷を荷なひしまゝ庭へ通せ」
松「畏まりました」

これから長兵衛を連れて庭に通りましたが、長兵衛は、きたない扮装で夜そば賣の荷をかついでそれへ来ました。夜見るとは異り畫問見ると、其荷は大分古びてゐる、今の鍋焼うどんの荷とは異ひ蟲賣りの荷の如き形をした物、屋根も出てゐます、其の荷には行燈がある。それには屋号が書いてある、長兵衛の行燈には的矢の通つた畫が書いてある、有馬侯はこれを見てゐたが

有「コレ、夜そば賣り、其方であつたか先夜予にそばを與へたは」
長「へエ左様でございます、あの節は殿様とは知らず失禮を申しました、そのおとがめもなくそばの代金として一兩くださいまして有難いことでございます、就きましては何ぞ御用があら

のことでございますが、其れは何ういふことでございませうか、松崎様から聞きましてにはそばの荷を持つて來いとのこと、御覽の通り荷はかついで來ました



何ういふこと

とでござ

殿「予はな、其方に就てそばを製することを學び、其の扮装にてそばを調理いたし來客に馳走いたし度く存する、其れで其方を招いたぞ」

殿「コレまで、そば粉は長く置くと猫になるか」
長「ネコと申しましたも、猫の猫はございませぬ、長く置きますと香も消えて其れに味がなくなり、それをネコと申します」
殿「左様か、然らば何れよ

長「へエ、其れではなんぞございませうか殿様がそばを拵へてお客様に御馳走するのでございませぬ」
殿「左様である、そばは何れから取寄せる」
長「信州が本場でございますが、其れから取寄せるには日數もかゝり、また入費もかゝります、其れは粉屋に行けば信州の蕎麥粉もございませぬ、ネコになつた物もございませぬ」

り取寄せてよいか」
長「新しいそば粉を買へば宜しいございませぬ、まづ江戸に近い處でそばの宜く出来る場所は深大寺でございます、こゝで出来るそばは本場の信州より良いと云ふことでございませぬ、しかし私は夜そば賣でございますからそんなものを賣るに及びませぬから濱松町の問屋に行きましてそばを玉で買つて來ます」
殿「玉といふは何ういふ物だ」
長「そばになつて居ります問屋に行けばしらへてあります、それを買つて來て使ひますから手數もかゝりませぬ」

殿「左様か、荷問ふが、そばにしつぽこ、葱南蠻、花まき等と申すものがあると、の事、先夜其方はそのやうなことを申したな、それは何れで求める」
長「それは自分で拵へますしつぽこは駄にゆばなどを入れましたそばの事、葱南蠻油揚げを焼いて、花まきは海苔を焼いて、つを四つに切つて懸て出します、他に王子とちも御座います、夜そば賣はとちなぞは賣れませぬ、この外に近頃は天婦羅を入れるそばも御座います、それも夜そば賣は賣れませぬ、値の高ものは私共は賣る事は出来ませぬ」
殿「左様か、今日より其方についてそばを調理いたすことを學ぶであらう」
長「これは恐れ入りました

こんな事は習ふ程むづかしい事でもございませぬが、斯うするものだ云ふ處を御覽に入れます」
殿「其方の名は何と申す」
長「瘤長と申します」
殿「こぶ長とは珍らしい名である」
長「へエ本名は長兵衛でございますが左の肩の下に瘤が御座います、それで瘤長といふ異名を取りました」
殿「成る程其方の肩じりに瘤があるな、取除いたら宜からう」
長「へえわたくしもこれを取ろうかと思ひましたが、これがあつた爲に人に早く知れませぬからそれで付けて置きます」
殿「然らば其方を知らず道具であるな」
と笑ひました。

平町二丁目

三井タクシ

電話六八五番

胃腸病藥の王座を占むる純漢法藥

松前 家傳

靈効散 (無効返)

ホントに北海道で出來た靈藥が着荷致しました。今迄のは福島市内で製藥したので兎角の批評がありました。今度のものは眞正のもので奏効確なものです。服用しなくては其の眞價が判りませぬから、皆様見本品を差上げます。御遠慮なくいらつしやつて下さい。見本品でも二日間飲まれますから胃腸病に苦しむ方、惱病、心臓、痔疾の方は是非御試し下さい。クセにならず根治致します。小兒用の靈効散も出來ました。

定價
 試用分(八日分) 輕症用(廿日分) 五十錢
 重症用(四十五日) 壹圓

販賣部 地方代理店
 靈効散 平町古銀治町縣社ノ下
阿康藥舖
 電話四四番

市原醫院

平町田町(電話一四番)

内科 小兒科 市原卯太郎
 外科 一般、婦人科 市原陸郎
 外科 梅毒、淋病 市原三三男
 入院隨時

鹽 豚
 肉 蒲 鉾
 田町 三三三屋

御料理 八千代

平町田町 電話三七五番